

2学期の委員会活動を振り返って

2学期の成果はクラスごとメリハリをもって生活できたこと。保護者会で上映するビデオの撮影では、どのクラスも恥ずかしがらずに学年の明るさを表現できた。3学期はメリハリを授業でもつけたい。
1年学級委員長 K君

朝・帰りの会で行事がよりよいものとなるように呼びかけを行ってきた。学級課題を共有して目標を立て、学年朝会で発表した。今後も呼びかけを続け、いつでも進級できるような学年・学級を作っていきたい。2年学級委員長 Y君

受験に向けた学年の雰囲気作りに取り組んできた。体育祭や音楽会などの行事を無事成功へ導くことができたのは3年生1人1人の強い想いがあったからこそ。残された中学校生活を全員が前を向いて協力できる学年にしたい。
3年学級委員長 Kさん

生活目標がスムーズに考えられ、集計を取り、結果を放送できた。またいじめゼロアンケートを行い、堀中生の疑問を改善できた。引き続き交通ルールを守り安全に生活しましょう。
生活安全委員会 M君

1学期は歯の磨き方、2学期はコロナ感染の注意と手洗いと目の視力に関するアンケートの実施と結果を、保健だよりを使って伝える活動を行った。最近オミクロン株など変異種が流行してくる可能性があるため今まで通り密を避け感染予防に努めましょう。
保健委員会 Oさん

2学期は呼びかけを主に行った。それによりお皿を割ってしまうなどの色々な課題が改善された。しかし、エプロン忘れがどのクラスでも多いという課題がある。委員から呼びかけをしますが、忘れないように心がけてください。
給食委員会 Mさん

無言清掃は3年生を中心に多くの人に取り組んでいる。またごみの分別では大きな課題でしたが少しずつ改善されている。校務員さんにも頼らずに運営できた。
環境委員会 Oさん

昨年度まで1年に1回だけだったリクエスト放送を学期に1回実施までに増やすことができた。通常の放送も徹底することができ体育祭においてもその場に応じて対応できた。
放送委員会 K君

時期に合った本を紹介することができた。またおみくじを行った。これらの成果で図書室を使ってくださる方が増えた。改善点もいくつかあるのでそれを生かし今後につないでいく。
図書委員会 H君

今年度はコロナ禍のため仕事量が少なかったこともあったが、募金活動で成果を出すことができたと思う。書き損じはがき等の回収も多く回収することができたと思う。
福祉委員会 Oさん

体育祭の準備や片付けを積極的に行い、取り組むことができた。また昼休みのボールの貸し出しを行っており委員会と協力して取り組んでいる。
体育祭実行委員会 N君

生徒会選挙の運営、進行や選挙についての昼の放送などを行った。選挙当日は委員会が1つとなって仕事をすることができた。例年とは違うコロナ禍での選挙でしたが変化に対応しながら役割を果たすことができた。
選挙管理委員会 Nさん

今年も新型コロナウイルス感染症予防対策のため例年と違うことも多い中、自分なりに精一杯委員会の運営、当日の進行、クラスへの呼びかけを行い、クラスや委員が不安にならないようにし、何とか本番大きなミスなく開催することができた。音楽会実行委員会 Uさん

12月14日の生徒朝会の様子



福祉委員会から

赤い羽根募金にご協力いただきありがとうございます。募金金額は35,165円
協力人数301人でした。



12月16日委員長会議 3年から2年への引継ぎ

12月の生活目標（生活安全委員会）

- ①掃除の質を高めよう
- ②寒い冬も体調管理をしよう

※生徒の自己評価では「よくできた」、「できた」と回答し、全校生徒100%を達成しました。

☆いじめゼロの取組振り返り☆

いじめゼロ強調週間の最終日に、全校生徒にアンケートをとり、本部役員がまとめました。

<図書委員の行った読み聞かせについて>

図書委員の皆さんには、タレント春名風花さんが書いた「君、想像したことある？」の読み聞かせをしてもらいました。春名さんは、「自分の成長を親がとても喜んでくれた」というエピソードを添え、誰もが大切に思っている人がその人の周りにはいるのだ、想像力を働かせていじめを止めようというメッセージを私たちに送ってくれていました。

- ・言葉の暴力で人の命を奪ってしまうことがあることが分かった。
- ・いじめている人はいじめだとは思っていないことがある。
- ・いじめられた人だけでなくその人の家族も悲しむ。
- ・傍観者になるのではなく助けたり止めたり相談に乗ったりする。
- ・いじめをしている人がいじめられている人の立場になって考えるのが大事。どのような立場でも相手の気持ちを想像することは何よりも大切だと思う。
- ・広い視野をもって想像力を働かせて過ごしていく。

<生活安全委員会が行ったSNSアンケートから見えてくるメッセージについて>

生活安全委員は、SNSのアンケートをとり、それを集計しました。集計した結果から見えてくることを発表しました。

- ・表情が見えないから友達とのメッセージ交換では間違った理解をしないようにしたい。また相手に誤解を招かないようにしたい。
- ・言葉はナイフのような凶器にもなる。ネットでもいじめでも人を追い詰めてしまう。SNSを使う時には緊張感を持つと思った。
- ・顔が見えていないからと悪口を言うことは絶対にダメだと思う。

どちらのアンケートにも「いじめは絶対によくない」「いじめについて改めて深く考えさせられた」という回答がありました。

最近、ニュースでいじめの報道があります。いじめの問題は決して他人事ではないと思います。軽い気持ちで、決していじめとは思わないで言ったことややったことが、相手にとっては安易に流せない大きなことであった、ということ無くしていかなくてはなりません。いじめをするのが、「人間」であるとしたら、いじめをとめることができるのも「人間」です。いじめを止めるためには、「想像力を働かせて行動していく」ということが大事なのではないでしょうか？
本部役員